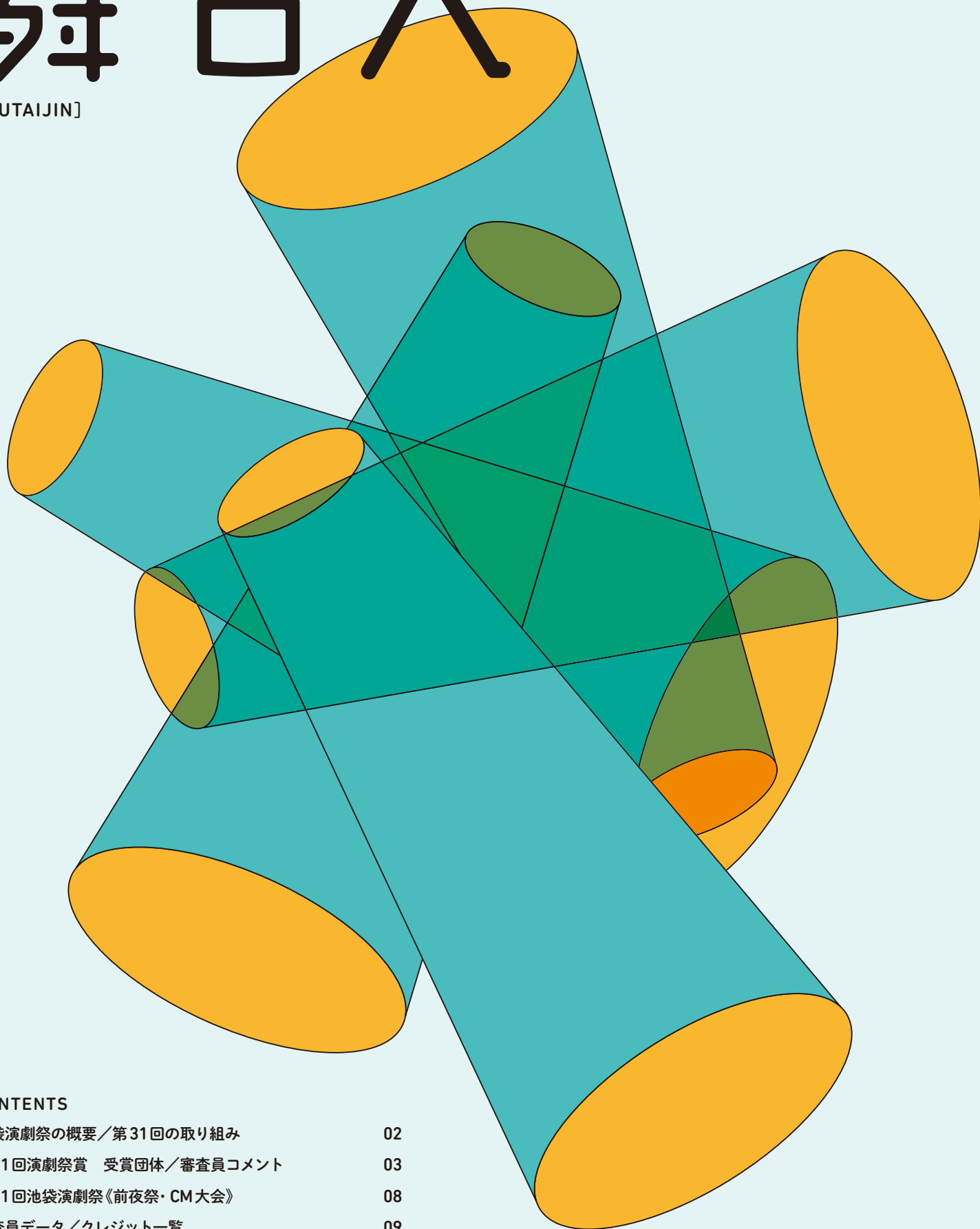


舞台人

[BUTAIJIN]



CONTENTS

池袋演劇祭の概要／第31回の取り組み	02
第31回演劇祭賞 受賞団体／審査員コメント	03
第31回池袋演劇祭《前夜祭・CM大会》	08
審査員データ／クレジット一覧	09
第31回池袋演劇祭上演記録	10
第32回池袋演劇祭参加団体・審査員募集／編集後記	12

池袋演劇祭とは

豊島区は、池袋を中心に数多くの小劇場が存在し、演劇を志す若い人々が集う街です。若い演劇人を育成しより多くの人たちに演劇にふれてもらう場として池袋演劇祭が企画されています。

池袋演劇祭は、平成元年(1989年)から地域密着型の演劇祭として毎年実施され、今年で31年目を迎えます。

豊島区に点在する劇場が連携して、何か出来ることはないだろうか、というのがはじまりでした。現在は、豊島区及び近隣で公演を行う団体が参加し、審査員は一般からの公募で毎年100名募集をしています。池袋演劇祭は、積極的に「演劇のまち」を力強く広く区の内外にアピールし豊島区のイメージアップに貢献してきました。このため、回を重ねる度に地域はもとより各方面からの関心も高まり、文化庁や東京都からも豊島区での舞台芸術の活発な活動が注目されています。30年を経て今後も池袋演劇祭は、豊島区が更なる飛躍をめざし、「国際アート・カルチャー都市構想」の一環として、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」への取組に際し、舞台芸術関連団体に幅広く連携を呼びかけ、引き続き地域に根ざしたユニークな演劇祭として開催いたします。

年間スケジュール（2019年度）

- 1月22日[火]～4月10日[水]

参加団体募集期間
- 5月10日[金]～6月20日[木]

審査員募集期間
- 7月12日[金]午後4時

団体・劇場関係者説明会 あうるすぽっと 3階 B会議室
- 7月19日[金]午後7時

審査員説明会 あうるすぽっと 3階 B会議室
- 8月23日[金]午後5時30分

第31回池袋演劇祭前夜祭「予告編・CM大会」サンシャインシティ アルパB1 噴水広場
- 9月1日[日]～9月30日[月]

第31回池袋演劇祭 豊島区内・近隣16会場
- 10月4日[金]午後7時

審査員・団体・劇場関係者 意見交換会 あうるすぽっと 3階 B会議室
- 10月11日[金]午後4時

「演劇祭賞」選定会 あうるすぽっと 3階 B会議室
- 10月28日[月]午後7時

「演劇祭賞」表彰式・祝賀会 あうるすぽっと（劇場・ホワイエ）

7つの特色

- 1

誰でも参加できます

プロ・アマを問わず参加可能です。
- 2

審査員を公募します

区外からも応募可能です。
- 3

一般公募審査員の採点により参加作品を表彰します

「演劇祭賞」各賞すべてを公募審査員が決定します。
- 4

参加団体が会場として区立ホールを使用する際には割引提供します

団体が参加しやすい環境づくりの一環として、会場使用料を割引します。
- 5

参加団体による前夜祭「予告編・CM大会」を開催します

参加作品の見どころを2分で観ることができます。
- 6

大賞受賞団体は翌年あうるすぽっとで公演ができます

劇場の無償提供と演劇祭へ招待公演として参加できます。
- 7

大賞受賞団体の翌年の招待公演の広報面をサポートします

第31回の取り組み

審査員募集をより広範囲に

従来のチラシ配布、ホームページ、広報誌等での募集に加え、複数の演劇情報サイトでの告知を行ったところ、前年の178名より多い200名からの応募がありました。その内87名は初応募でした。

審査員のためのレクチャー「舞台をみる→言葉でつたえる」を開催
演劇ライター・編集者の園田喬しさんを講師に招き、審査員に向けてレクチャーを行いました。採点表の感想欄の書き方を中心に、舞台の観方のコツや園田さんの取り組む観劇環境の整備についてのお話となりました。

採点表・アンケート各種の電子化

これまで紙で提出となっていた採点表・アンケート等の電子化を行い、スマートフォンからも採点表が提出できるようになりました。

表彰式の中継配信

表彰式のYouTube LIVE 配信を行い、表彰式に出席できない参加団体など来場者以外にも結果をリアルタイムでお知らせすることができました。当日の告知でしたが、50名程の視聴がありました。

大賞受賞公演をあうるすぽっとの共催公演として実施

チラシ製作、配布、稽古場提供等のサポートを行いました。

*各賞の結果やCM大会の映像、レポートなどは、池袋演劇祭のWEBサイトからご覧いただけます。

第31回池袋演劇祭

第31回池袋演劇祭は、全50団体の参加を受け、9月1日から30日にかけて豊島区および近隣16会場で開催され、10月28日に個人賞を含む計12本の賞が決定しました。

賞名称	団体名	公演名	会場名
大賞	電動夏子安置システム	ベンジャミンの教室	アトリエファンファーレ東池袋
優秀賞	イマノカゲキ	みんなのお葬式	シアターグリーンBASE THEATER
優秀賞	ラビット番長	カチナシ!	シアターグリーンBOXinBOX THEATER
豊島区長賞	東京ハイビーム	ホスピタル	コフレリオ新宿シアター
舞台芸術振興会賞	外組	ひみずや	アトリエファンファーレ東池袋
みらい館大明賞	劇団レトロノート	真新しい夜の下	アトリエファンファーレ東池袋
豊島区町会連合会会長賞	劇団バター猫のパラドックス	二進法の彼女・二進法の彼氏	コフレリオ新宿シアター
豊島区観光協会賞	Prelude	ここハ東京、ユメのなか	シアター風姿花伝
豊島新聞社賞	劇団ヨロタミ	純愛協想曲	萬劇場
としまテレビ賞	ルミエールシアター舞台制作研究社	走りだせ!スピードスター	シアターグリーンBASE THEATER
三浦大四郎記念賞	テンナイン	A CRIME	萬劇場
舞台芸術学院奨励賞(個人賞)	二宮咲	埋れ木「瓶に詰めるから果実」出演	北池袋 新生館シアター

【大賞】 電動夏子安置システム 「ベンジャミンの教室」



撮影：佐藤第一（劇団・ビデオ・ビデオ・ビデオ）

旗揚げから20年。その3分の1が池袋（豊島区）の劇場での公演でした。劇団の大きな節目にはこの街が深く関わっているのです。旗揚げ公演も、3ヶ月連続上演という挑戦をして赤字になったのも、シアターグリーンで賞を頂いたのも、その賞金でグリーン3劇場を借り切って3作品同時上演を強行して大赤字になったのも、すべて池袋でした。赤字の思い出ばかりだな。
そんな生粋の豊島っ子劇団はかつて、「ロジカル・コメディ」と

いう、わかりにくい喜劇を引っ提げて、池袋演劇祭に参加したものの、審査員から「内容がわからない」という至極まっとうな苦情電話を頂戴しました。今回の作品はそんな遠い昔の申し訳なさをバネに、もちろんお客様に笑って頂くのを第一義とした上で「社会にどう貢献できるか」を、今まで色々な恩がある池袋という地域を意識した芝居創りだった気がします。
「笑って、何も残らない」のがコメディの良さであるとは思いますが、とはいえ、その時々社会への風刺の精神を示すのも喜劇の使命だと思いますし、作品で劇場のある街に何かを還元したいという欲もあります。今後も自分たちの作品がエンターテインメント以上の価値を地域に生み出せるのか、試行錯誤を続けていきたいと思っています。
舞台芸術に力を入れている豊島区にて、こういう形で評価された事は、活動の一層の励みとなります。誠にありがとうございました。

〔電動夏子安置システム主宰:竹田哲士〕

審査員コメントから

「役者の演技が圧倒的でした。また、これまで観た会話劇のなかでは群を抜いて言葉が練られており、最上のコメディでした」
「『税』という、生活に一番身近な事柄でありながら どの劇団も避けて通りそうな題材を、とても分かりやすくユーモアを織り交ぜており、それに加えて役者の個性ある気合のこもった演技により、観客の笑いが絶えない芝居で、その空間にいて、とても幸せな2時間をいただくことができました」

【優秀賞】

イマノカゲキ「みんなのお葬式」



撮影：栗田博樹

令和初の池袋演劇祭でCM大会と本選の両方で「優秀賞」受賞、大変光栄に思います。思い返すと、一昨年はCM大会で特別賞、本選でとしまテレビ賞をいただき「来年はさらに上を目指して頑張ろう」と奮起。昨年はCM大会で最優秀賞となるも本選では受賞ならずという悔しい結果に終わりました。今年は気持ちを切り替えながらも「賞を意識した作品作りではなく、自分たちが面白いと思うものを信じて作品を作ろう!」と役者、スタッフ一丸となって稽古や本番に臨みました。その結果として、この作品を評価して頂けたことがとても嬉しいです。沢山の汗をかいと一緒に作品を作りあげた仲間たちとの間にまた一つ、夏の大きな思い出が出来ました。

我らイマノカゲキは立ち上げ4周年、ヨチヨチ歩きのまだまだヒヨッコな団体です。他のキャリアの長い団体さんと比べて至らない点、出来ていない部分が沢山あります。ですが、この受賞を糧に次の演劇祭（恐らく来年）ではさらに磨きをかけた作品をお見せできるようさらに頑張ります。これからも「笑って、泣いて、見た後に元気になる、ミュージカルコメディ」を豊島区から発信していけたらと思っておりますので、今後ともイマノカゲキをよろしくお願い致します。

最後になりますが、劇場に足を運んで下さった皆様、池袋演劇祭実行委員の皆様、そして演劇祭に関わったすべての方々に深く深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました! [イマノカゲキ主宰:クワハラー・チュースキー]

□ 審査員コメントから

「とにかく楽しい舞台! これだけ個性的なキャラクターを次々と繰り出せるなんて、と人材の豊富さにまず驚いた」

「最初から最後までストーリーの中にどっぷり入り、笑ってちょっぴりジーンときて。ストーリーや意外な人物設定、最後のオチも見事! すべての役者がコミカルな愛すべき人となり、観ていて本当に楽しかった」

【優秀賞】

ラビット番長「カチナシ!」



撮影：直江尚徳

滋賀のド田舎で生まれて、演劇といえば地元年に一回来る劇団四季と加藤健一事務所（ふるさときゃらばんも見たな、思い出した）。滋賀県出身ということで北村想演劇祭っていうのもあって北村想さんの作品をアマチュア劇団が上演するイベントもありました。想さんのサイン付き台本をその時買った記憶があります（確か、寿歌）。ネットもない時代だから情報がなく、今は無くなっ

た「テアトロ」や「新劇」といった雑誌で池袋演劇祭があると知ったその時から、池袋演劇祭に参加することは運命だったように思っています。

初めて参加すると決めた時から二年連続でほぼ全作品を見て、来年は俺達も審査される立場かと興奮していたら、まさかの大塚ジュルスホールの閉館。あちこちの豊島区の小屋に電話しても当然、空いてる小屋はなく。

最後に訪ねたシアターグリーン。「ビッグツリーなら」と言われたもののそんな動員はなく（今もない）、雨の中トボトボ歩く帰り道、知り合いの主宰に会って「どうしたの、井保? そんな暗い顔して」

事情を話したら「私達が押さえてるボックスインボックスでやりなさい」と一言。声を出して泣きました。

あれから十五年。ずっと参加しています。

劇団も審査員も楽しめる演劇祭、ますますの発展を願っています。もちろん私も精進致します。[ラビット番長主宰:井保三晃]

□ 審査員コメントから

「表題は「カチナシ!」。観劇の前は、将棋の話だから連敗中という事かと思ったが、話が進むにつれ、生きる価値のアリナシを問うているのかと気がついた。価値のないものなどあるものか。それを多彩なシーンを積み重ねて説いていた」

「最初から最後まで一瞬も飽きることのない素晴らしい公演でした。将棋と福祉の掛け合わせというテーマからこんな面白い物語ができるのかと心躍りました」

【豊島区长賞】

東京ハイビーム「ホスピタル」



撮影：ミカヅナシ

2011年創立の東京ハイビームは今年、9年目に突入しました。

当初は、メンバーがなかなか固定せず、僕が作りたいコメディをなかなか創作する事が出来ませんでした。

そんな中、今回上演し、豊島区长賞を頂いた「ホスピタル」は、創立2年目に劇団員全員出演をと、書き下ろした戯曲で、それぞれの役自体のハードルが高く、公演自体は好評でしたが、僕としては悔いの残る公演となりました。

で! 池袋演劇祭という場をお借りし、「新たな挑戦を!」と再演しました。手応えはあったものの、やはり細部に悔いが残り、残念な気持ちを持ちつつ終演しました・・・。

が、結果、「豊島区长賞」という大きな賞を頂き、頑張れ! と、背中を押して頂いた気がしています。

これからも、難しいコメディワールドへの挑戦を続けて行きたいと思います! 本当にありがとうございました。[劇団・東京ハイビーム主宰:吉村ゆう]

□ 審査員コメントから

「多種多様な登場人物たちが、あれよあれよと絡み合ってゆく過程は、心躍りました。また、誰一人余分ではなく、ストーリーに色を添える役割を持っていました。そして愛すべき魅力的なキャラクターであったことが、観劇後のさわやかな感動となったと思いました」

「最初は軽快なダンスや、個性のあるキャラクターを面白いな、楽しいなと思って観ていたのですが、徐々に登場人物の気持ちに歩み寄るようになり、最後は自然と涙が流れました。演劇に興味のない友達にもお勧めできる、素晴らしい作品だったと思います」

【舞台芸術振興会賞】

外組「ひみずや」



撮影：ピーター

劇団旗揚げ公演が2008年9月なので、約12年。

演劇の世界に身を置いていますと、月日の流れは早いものです。

そんな中で初めて「演劇祭」というものに参加しました。

率直な感想としましては、それはもちろん「舞台芸術振興会賞」という素敵な賞まで頂いたのですから、参加して本当に良かった! という一言に尽きます。

この場をお借りして、審査員の皆様、そして数ある劇団・団体の中から我々を選んで劇場まで足を運んでくださったお客様に、心から感謝致します。

私個人としましては、受賞した際の挨拶でも言った通り、もっと沢山の方々と繋がって、お互いの作品を観劇し合い、尊重出来る様な心持ちでいたら、もっと意味のある参加になったのではないかと、反省しております。

「池袋演劇祭」というお祭りが、この先も、もっと沢山の劇団・団体、沢山の皆様を巻き込んで盛り上がり、それが「演劇」の向上に繋がっていくことを願います。そして、またご縁ありましたら、ぜひ反省も踏まえ参加し、一緒に盛り上がっていただけたらと思っております。

この度は、誠にありがとうございました。またお会いしましょう!

[外組座長:中野マサアキ]

□ 審査員コメントから

「男性のみの役者構成でしたが、そのせいなのかとてもまとまりがよく、チームワークの良さが舞台ににじみ出ていました。炭鉱というむさくしく泥臭い設定に関わらず、懸命に働く男たちの豪快さ、爽快さがあり、客席も同じ釜の飯を食っているような一体感がありました」

「シンプルな舞台セットですが、物語の展開によって変化させる工夫があり、今では遠い存在になってしまった産業を、演劇を通して追体験できるような見事な公演でした」

【みらい館大明賞】

劇団レトロノート「真新しい夜の下」



撮影：Naio Iwata

劇団レトロノートは、演劇・劇団というものが大好きで、回り道や迷い道を繰り返しながら18年間劇団活動を続けてきました。そして今回、みらい館大明賞を頂いた作品「真新しい夜の下」で、その活動に幕を降ろしました。

我々は、市井の人々の日常の中にある普遍的な事柄を、今の自分達に正直に、等身大の姿で表現する事に重きを置き、創作活動をしてきました。

今作でも『続けること、辞めること、諦めること、立ち続けること、諦めず

進むこと」を善し悪しで表すのではなく、悩み抜いた末の本人の決断こそがその人にとっての答えなのではないかと、ある意味、我々にとっても自分達の18年間を問う作品を、正直に創りました。

最後の最後で初めて賞のある演劇祭に参加させていただき、しかもこんなに素晴らしい賞を頂いたことは、我々の18年を認めてもらえたようで本当に誇らしく有り難く思っています。

この群雄割拠の小劇場界で勝負し続けることは、とても楽しく、しんどいものでした。文化的な後ろ盾の少ない日本文化の中で生き残るのはなかなか難しい現状が今の小劇場にはあると思います。池袋演劇祭のように豊島区や事務局の皆さまの試みが、なかなか光の当たりづらい小劇場の若い力や努力を続ける劇団の光となっている事は間違いありません。我々も最後に素晴らしい光を当てて頂きました。

今後は劇団員はそれぞれの道を歩んでいきますが、まだまだ頑張れそうです。この度は誠にありがとうございました。[劇団レトロノート代表:中村公平]

□ 審査員コメントから

「笑いと言真面目なシーンとのバランスが良く、たたみ掛けながら笑わせた後のふんわりとした優しい場面の作り方など観ていて飽きることがなく、2時間の物語があっという間に終わってしまい、もう一度観たいと思うほどでした」

「人生における夢や挫折や葛藤は人の共感を得やすい題材です。でもそればかりにフォーカスしすぎると、下手すれば涙を誘っているな、と少し冷めてしまう場合もありますが、この作品はやりすぎではなく、良いさじ加減で熱さを織り込みながらストーリーを組み立てており、観ていて気持ちよかったです」

【豊島区町会連合会会長賞】

劇団バター猫のパラドックス「二進法の彼女」「二進法の彼氏」



撮影：大嶋秀次 (P-Ganga)

池袋演劇祭は3度目の挑戦になります。

前作と前々作以上に、今回は様々なことに挑戦しました。

ダンス、歌、マッピング、そして二本同時公演……。マッピング以外は全て初めての試みになります。

大変でした。今まで以上に手探りで試行錯誤しながら、自分のキャパシティの狭さを日々実感しながら舞台を造っていきました。悩んで迷って、進んでいるのか退がっているかわからない状態が続きました。しかし、「お客様に楽しんでいただきたい」。この想いだけは最初から最後までブレませんでした。

池袋演劇祭の素敵なところは、一般の方に作品を審査していただけることです。今回受賞に至ったのは、多くの方にその想いが伝わったからだと思っています。そして、そんな自分の想いを舞台上で表現してくれたキャスト、スタッフ、関係者のみなさま、そして舞台を楽しんでいた審査員、実行委員の方々のおかげだと思っています。今作の受賞を励みにまた新たな作品を造っていけるように精進します。改めまして、本当にありがとうございました。

[劇団バター猫のパラドックス 作・演出:石戸浩太郎]

□ 審査員コメントから

「ひとひねりした題名にまず興味を持った。現実と仮想現実が交差しながら展開するこの劇は、テンポのよい進行と切れの良い照明・映写に支えられて、観るものを引き付ける」

「驚いたのは、出演者全員の笑顔に始まる「表情のクオリティ」が非常に高かったということ。顔の筋肉を特別に鍛えているのかというくらい、出演者が全員、男女問わず、自然で美しい表情をしていた。本当にこれだけで「観に来てよかった」と思ったくらいだった」

【豊島区観光協会賞】

Prelude「ここへ東京、ユメのなか」



まずは、この演劇祭の企画をして頂いた実行委員会の皆様、そして、アクセスの悪い中（台風も近かったため）劇場に足を運んでいただいたお客様方にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

池袋演劇祭への参加は初でしたが、こんなに多くの関係者の方に作品を知っていただけたことを何より嬉しく思っております。

また、自身の想像以上の今作品の反響の大きさに、正直驚いています。

劇団をやっているとやはり観に来ていただける方が固定化されて、正直なコメントをいただけることが少ないのですが、今回は多くの第3者の方から、批判も賞賛も含め、率直な意見をいただけたことが大変喜ばしかったです。

初めてPreludeをご覧いただけた方、普段シリアスな作品を観ることがない方にも楽しんでいただけて、もっと自分たちの世界観を世間に広めたい。と感じたとともに、もっと広告活動をしなければならないという新たな反省点も主宰として出てきました。

最後に、エンターテインメントというよりは、少し社会派のメッセージが強いこの作品で受賞できたことが何より光栄ですし、今後の励みになりました。

また、今後とも参加させていただける機会がありましたら、是非とも参加して、大賞を狙いたいと思います。この度は貴重な機会を本当にありがとうございました。[Prelude 主宰:西村賢人]

🗨 審査員コメントから

「私は東京に生まれ東京で働き、あそび、引退し、東京に暮らして70年。今の東京を、そして東京に生きる人々の内部を、このように表現する方法もあるのだなあと思面白く思いました」

「男女の感覚の違い、すれ違い、食い違い、死者の生前の後悔、保険金関係の事柄などは、特に身近に感じられました。舞台を観ていて、生きる勇氣と希望を与えられ、感動によって癒されました。素敵な作品に巡り合えたことに感謝しています」

【豊島新聞社賞】

劇団ヨロタミ「純愛協想曲」



この度は池袋演劇祭に参加させていただき、そして賞までいただき、本当に本当にどうもありがとうございます。

私ども劇団ヨロタミの本演劇祭への参加は、数えてみたところ今回で12回目でした。第18回の初参加からほぼ毎年参加させていただいているわけですが、我々ヨロタミは旗揚げから17年、ほぼ同じメンバーで続けております。よくもまあ、こんなに続けているものだ、と我ながら思うのですが、それもこれも池袋演劇祭があったからだと思っています。勿論それだけが理由ではありませんが、内輪のお客さん以外にも多くの人が足を運んでくれる場を提供してくれたからだと思っています。

我々小劇団は、中々世に出られなく、自己満足に陥ってしまう事が多々あります。私たちが毎公演そうなのかも知れません。ただ、こうして毎年、いわゆる賞レースというものに参加していることで、そうならないように努める事ができるのではと思っています。

私たちはたまたまこうして運良くというか、努力が報われたというか、賞をいただく事が出来ました。選にもれてしまった団体さんも凄く良い作品を作り上げたところもあったと思います……私たちも沢山悔しい思いをしました。でもそれがあっての今だと思っています。満足することはこれから先、常にはないとは思いますが、日々の新たな目標に向かって邁進していきたいと思います。

【劇団ヨロタミ 作・演出係:坂本直季】

🗨 審査員コメントから

「涙あり、笑いありで最高でした。恋愛、夫婦間の愛情、親子間の愛情、同性間の愛情をこまやかな目で取り組んだ暖かいお芝居です」

「純愛だけでは乗り越えられない多くの問題、世間とか金銭問題といった苦しみ・悲しみを、舞台を観ている2時間だけは夢見ることができました。ラストは皆が幸せになりました。楽しくてすばらしい作品でした」

【としまテレビ賞】

ルミエールシアター舞台制作研究社「走りだせ! スピードスター」



はじめに、今回入賞させて頂くことができましたのは、ご協力、応援頂きました皆様や、ご観劇下さいましたお客様があったからこそだと思います。深く御礼申し上げます。

Lumiere Theater(ルミエールシアター)舞台制作研究社は、新元号を機にスタートしたばかりの制作団体でございます。

団体として初制作、初作演出、初舞台の演者がいる中、無事に上演することができました。

我々にとってこの業界で、生業として活動していくには、大変厳しい世界であることは痛感しております。これは、理由は言わずとも演劇に興味のある方であれば誰もがご存知な事でしょう。しかしながら、如何にも終止符を打つことはできず、この創作活動を継続している次第です。

同業の方々や、芸術家、有名な猛者たちが次々と現れる過酷な環境の中、我々はこれからも演劇や舞台芸術、エンターテインメントの発展に寄与する為、研究を重ねていきたいと思います。

現実、本公演（劇団バックヤード物のお話）のように、ファンタジーな世界（都合よく話が展開する）とはいきませんが、本編と変わらず、情熱（パッション）だけは絶やさず、生涯、後世まで続いていくような素敵な企画を立案していきたいと思います。

これからの私たちの活動を暖かく見守っていただきますようお願い申し上げます。[Lumiere Theater(ルミエールシアター)舞台制作研究社 代表:矢野平祐]

🗨 審査員コメントから

「元気よく、パワフルで、演劇と小劇場に対する愛を感じる作品でした。雰囲気がとても良く、役者さんが楽しそうでよかったです」

「タイトル通りにテンポ良くスピード感もあって楽しめました。現在と過去の場面転換も無理がなく、それぞれのキャラクターがしっかりできていることも良い感じでした。素敵な役者が多いので、また面白い作品を期待しています」

【三浦大四郎記念賞】

テンナイン「A CRIME」



撮影：akiko Kobayashi

テンナインは普段はアートフェスなんかでパフォーマンスをしています。

我々のシネマイトという表現の認知度が限りなくゼロに近いのは自他共に認める事実ですので、毎回『映画』と『マイム』で『シネマイト』ですよ』みたいな入口からの前口上を長々と打ち、お客様になんとなくイメージしてもらい、そこから演技に入るというルーチンが必要でした。

この、まだまだお客様の「演劇」という認識の枠内に入れてもらえていないシネマイトという表現技法で賞を取れるなんて考えもしませんでしたものですから、この度受賞に至ったことに喜びよりも先に驚きが沸いてきました。

なんとという素晴らしい演劇祭であろうか。と。そしていまここに「私は池袋演劇祭の懐の深さを甘く見ていました」と懺悔するものであります。

舞台芸術すべてに間口が開かれている演劇祭は希少です。池袋演劇祭がそうあるのは、都会も田舎もメジャーもマイナーもすべて拒絶せずに受け入れてきた池袋という町の特徴・風土がとても良く反映されているからだと思います。町が演劇を作り、演劇が町を作る。そんな繰り返して、すべての演劇への挑戦者をこれからも受け入れていってくれることだろうと期待せずにはいられません。[テンナイン主宰:関谷誠]

🗨 審査員コメントから

「すべてがプロ集団の作品だと感じる完成度でした。空間から、がらっと変える力を持っており、物語の中に引き込まれるようでした。他にはない、おもしろい作品でした。」

「ストレートに「楽しい時間をありがとう!」と申し上げたいです。背景もすべて出演者がバントマイムで表現するスタイルは、他の劇団でも拝見したことはありましたが、約2時間全編で突き通していたのは初めてです。みなさんととても素敵な役者さんたちでした」

【舞台芸術学院奨励賞】

二宮 咲

(埋れ木「瓶に詰めるから果実」出演)



受賞した感想ですか?! やった〜〜〜〜〜!!!!!!

この度は「舞台芸術学院奨励賞」を頂き、ありがとうございます。

私は、埋れ木さんのことを“新進気鋭の”という言葉がぴったりな劇団だと思っています（ご本人たちはもしかしたら嫌かなのですが）。そんな“新進気鋭の若手劇団”の公演から新進気鋭の若手俳優を選ぶ賞が選ばれたこと自

体も、とっても嬉しく思います。埋れ木さん、稽古中も本番も作品もとにかく楽しかったので、そのわたしの楽しさが素直に皆様に伝わった結果だなあと思いました。先日、舞台芸術学院理事長の小林さんに出演した別のお芝居を観ていただけて、初めましてだったのですがお忙しい中引き留めて「どうして私が賞を?!」と聞きましたらすごいざっくり「面白かったからです」とお答えいただきました。「面白かった」……なんて良い響きなのでしょう。最高です。わたしは、観ていただいた方に「面白い」と、私自身だけでなく演劇そのものを「面白い」と思ってもらいたいし、そのために邁進していきたいなと思いました。受賞、本当に嬉しいです。これからがんばります！

ご観劇いただきありがとうございました。ぜひまた劇場でお会いしたいです。[俳優:二宮咲]

劇団埋れ木主宰の久保です。

作風として、常に出演される俳優の方々の人間としての魅力が出来る限り素直な形で舞台上に乗ればいいなと思って製作に取り組んでおります。なので物語の軸はありながらも、登場人物全員に見せ場を作るようにしています。

受賞された二宮さんに演じていただいた役はその中でも主軸とは離れた、サブのストーリーラインにいるキャラクターでした。

出演された俳優全員がしっかりと演じていただいたうえで、そんな二宮さんが受賞された事実は私自身の製作の方向性の後押しとなりました。勿論二宮さんが俳優として、埋れ木の形を体現してくれたおかげであり、二宮さん自身の魅力によるところが大きいです。

団体受賞は叶いませんでしたが、埋れ木に出演した二宮さんの受賞、ということで前向きに自信としていければと思います。[埋れ木主宰:久保盾介]

審査員代表コメント

第31回池袋演劇祭に参加して

審査員代表:崔 慧淑

初めて審査員として参加した崔と申します。普段から演劇は結構観る方です、今年の演劇祭では指定作品を含めて14作品観劇しました。

最初に、参加団体・審査員・実行委員会その他すべての皆さまに「お疲れ様でした」と「ありがとうございました」のご挨拶を送りたいです。

参加した感想として、大きく三つお話ししたいと思います。まず第一に素晴らしいと思った点は「参加団体数の多さ」と「演目の多彩性」です。CM大会授賞式のスピーチでも申し上げたことですが、ジャンル・年齢層・出演者数・参加歴が多様多様で、まさに演劇のお祭りだなと感じました。これだけ多彩な作品があれば、誰にとっても新しい素敵なものと出会えると思いました。

同時に、これらを一括りにして大賞を決めるなんて出来るのだろうかとも思いましたが、それを可能にするのが審査員の存在でした。

私が二審目に素晴らしいと感じた点は、審査員や参加団体の方々や演劇について意見交換が出来ることです。一つの作品を性別・年齢層・観劇歴もバラバラな10人の公募審査員が採点しますが、この10人はいわば一般の観客と同じです。意見交換会で他の審査員と「どの採点したか」「どの作品が一番面白かったか」と話してみたら、好みも着眼点も評価方法もバラバラで聞いていてとても楽しく時間が足りないくらいでした。この10人は演劇の専門家ではありませんし演劇に詳しいとも限りませんが、一般の観客を再現したようなもので、普段参加団体の皆さんが相対する観客の意見に限りなく近いものになると思います。意見交換会で色んな方の視点や考え方に触れられたのは、演劇祭に参加しての大きな学びでした。

この意見交換会で話題となったテーマを踏まえて、この場で最後に申し上げたいことは「全団体がCM大会に参加して欲しい」です。意見交換会での大きなトピックに「宣伝・集客」と「もっとお祭り感が欲しい」というものがありました。CM大会は新規集客の良いツールになります、というのも私自身昨年のCM大会をサンシャインシティでたまたま見かけたことが今年の審査員応募に繋がったという経緯があります。また演劇祭といっても、上演は各々の時期にそれぞれの劇場で行っている訳で、参加者が一堂に会する数少ないチャンスでもあります。

そして何より、これは個人的な要望が多分に含まれますが、素晴らしい作品を見逃したくないのです。1ヶ月間の演劇祭、公演日程は重なりまくるなかで、観たい作品から取捨選択せねばならない場面もあります。その時に、CM大会の印象がアドバンテージとなるのは言うまでもありません。観客は素敵な作品を観たいのです、だからこそアピールの機会を逃さないで欲しいと思いました。

拙い言葉になりましたが、まとめると審査員として池袋演劇祭に参加して良かったです。来年はさらに沢山の素敵な作品と出会うことを期待します。本当にありがとうございました。

前夜祭・CM大会

参加団体が2分間で自分達の公演をアピールする噴水広場でのCM大会。

日時= 8月23日[金] 17:30~ 会場=サンシャインシティ アルパB1 噴水広場

今年は 30 団体が参加し、歌や踊りなど工夫を凝らした PR を披露し、通りがかった皆さんも楽しんでいました。
最優秀賞は、大阪から参加の「劇団 The TimelessLetter」。傘を活用したパフォーマンスで作品のファンタジックな世界観を表現し、見事、最優秀賞を獲得しました。



最優秀賞 劇団 The TimelessLetter
『SEVEN STORIES』



優秀賞 劇団生命座
『太陽が落ちてきた～すずなりの逸声～』



優秀賞 劇団東俳
『ラフラッパ !!』



優秀賞 イマノカゲキ
『みんなのお葬式』



特別賞 ハグハグ共和国
『夏休みの友たち』



特別賞 劇団現代古典主義
『同時進響劇「スペインの悲劇」～ヒエロニモの怒り～』



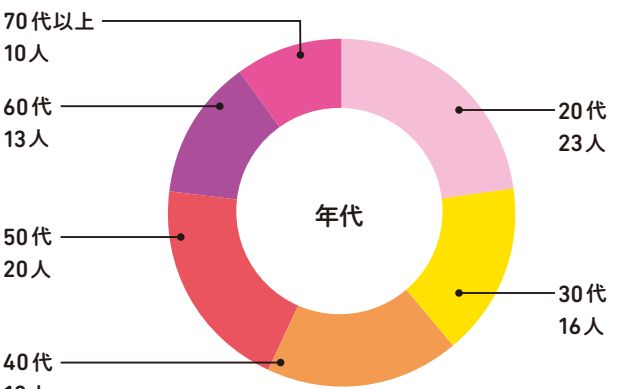
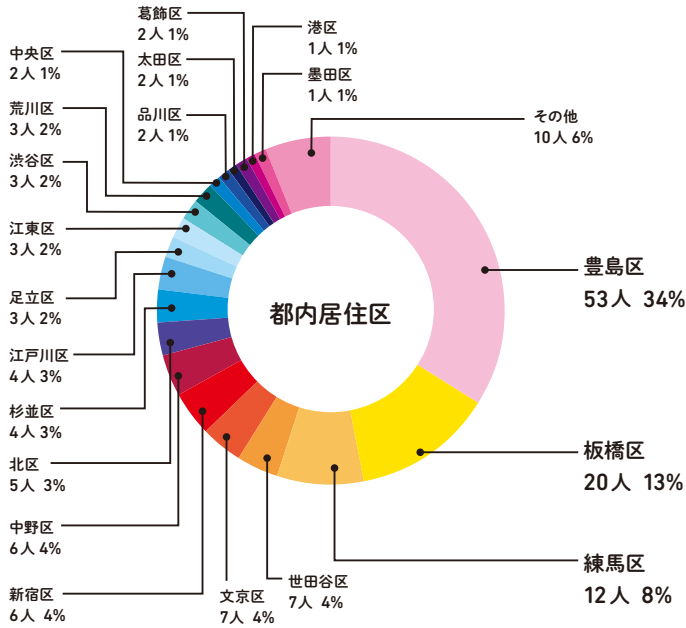
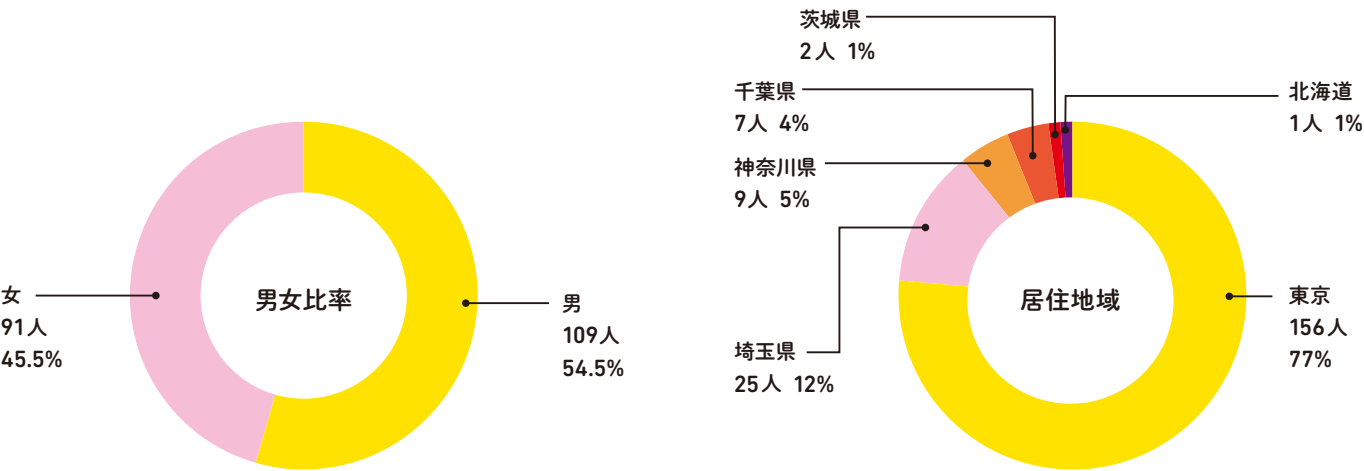
特別賞 演劇ユニットちょもらんま
『僕はキヨシ。名前だけはある。』

撮影:山本未紗子

審査員データ

募集期間= 2019年5月10日[金]～6月20日[木]

応募総数= 200名 ⇒ 抽選の上、男女・年代が平均化するように100名を決定



池袋演劇祭実行委員会

【委員】

名誉委員長	高野之夫	豊島区長
委員長	朝比奈 文彦	シアターグリーン支配人
副委員長	藤田 力	豊島区文化商工部長
副委員長	小澤弘一	豊島区文化商工部 国際文化プロジェクト推進担当部長
委員	飯村弘一	萬劇場
委員	小林 真	舞台芸術学院 理事長
委員	白神久吉	東京芸術劇場 舞台管理担当課長
委員	関 慎吾	公益財団法人としま未来文化財団 劇場運営部長
委員	東澤 昭	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事・事務局長
委員	蓮池奈緒子	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと支配人
委員	渡邊圭介	豊島区文化商工部 文化デザイン課長

【顧問】

顧問	阿部寿美子	俳優
顧問	大沼映雄	
顧問	斎藤 真	劇団俳小代表
顧問	田邊 彬	

【事務局】

事務局長	蓮池奈緒子	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと支配人
事務局	中村みなみ	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと 制作
事務局	横山真華	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと 制作
事務局	高橋真実子	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと 制作

主催

池袋演劇祭実行委員会

後援

一般社団法人豊島区観光協会、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
株式会社サンシャインシティ、NPO 法人いけぶくろ大明、豊島区町会連合会、
株式会社豊島新聞社、豊島ケーブルネットワーク株式会社

協力

東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、池袋西口商店街連合会、
池袋東口美観商店会

助成

令和元年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

東京芸術祭2019 連携事業

上演記録

団体名	演目	公演期間	回数	公演会場	参加歴
劇団モンキーチョップ	塚子 THE FINAL	8/27 ～ 9/1	9	アトリエファンファーレ東池袋	初
劇団レトロノート	真新しい夜の下	9/3 ～ 9/8	10	アトリエファンファーレ東池袋	初
外組	ひみずや	9/11 ～ 9/16	10	アトリエファンファーレ東池袋	初
電動夏子安置システム	第 41 回公演「ベンジャミンの教室」	9/18 ～ 9/23	10	アトリエファンファーレ東池袋	1
劇団 YAMINABE	ホーンテッドペンション	9/25 ～ 9/29	9	アトリエファンファーレ東池袋	初
埋れ木	第五回本公演 「瓶に詰めるから果実」「プラスチックは錆びない」	8/28 ～ 9/3	12	北池袋新生館シアター	初
EVKK(エレベーター企画)	売り言葉	9/5 ～ 9/8	6	北池袋新生館シアター	初
劇団おおかみ少年	# 灰かぶってみた	9/10 ～ 9/12	5	北池袋新生館シアター	初
ソラミミ	わたしは…	9/13 ～ 9/16	7	北池袋新生館シアター	初
演劇ユニットちょもらんま	僕はキヨシ。名前だけはある。	9/26 ～ 9/29	7	北池袋新生館シアター	4
ジョーカーハウス	サイバーリベリオン	8/31 ～ 9/2	6	シアター KASSAI	1
演劇企画イロトリドリノハナ	人生のおまけ ～ Collateral Beauty	9/5 ～ 9/9	8	シアター KASSAI	1
MousePiece-ree	gift 魂	9/26 ～ 9/29	6	シアター KASSAI	初
いしくらけんしろうと かつば3兄弟	廃れた屋の網の戸で、今年もセミが鳴いてます。(再) ～メスは鳴かねえからありゃきっとオスだ～	8/30 ～ 9/2	6	シアターグリーンBASE THEATER	初
ルミエールシアター 舞台制作研究社	走りだせ! スピードスター	9/6 ～ 9/10	8	シアターグリーンBASE THEATER	初
劇団 月のシナリオ	海と日傘	9/14 ～ 9/16	5	シアターグリーンBASE THEATER	初
甲斐ファクトリー	第 6 回公演「8 月のモンスター」	9/19 ～ 9/23	7	シアターグリーンBASE THEATER	初
イマノカゲキ	みんなのお葬式	9/25 ～ 9/29	9	シアターグリーンBASE THEATER	2
J-journey	ミュージカル 未完の贈り物	9/11 ～ 9/16	11	シアターグリーンBOXinBOX THEATER	初
ラビット番長	カチナシ!	9/19 ～ 9/23	9	シアターグリーンBOXinBOX THEATER	11
演劇ユニット「クロ・クロ」	巖窟に眠る	9/26 ～ 9/30	9	シアターグリーンBOXinBOX THEATER	初
劇団オモテナシ	月夜に舞い上がる桜	9/7 ～ 9/16	15	シアターグリーンBIG TREE THEATER	初
劇団東俳	ラフラッパ!!	9/13 ～ 9/15	6	座プロローグ	5
劇団 The TimelessLetter	SEVEN STORIES	9/28 ～ 9/29	4	座プロローグ	初
猿美企画	さるみ、一人舞台 はじめます。	9/21 ～ 9/22	3	小劇場であとらぼう	初
おしばいかむばにゐ	へたっぴ棒	9/26 ～ 9/30	8	小劇場であとらぼう	3

会場数= 16 会場 参加団体= 50 団体 演目延公演回数= 395 回 総観客数= 30,560 名

団体名	演目	公演期間	回数	公演会場	参加歴
豊島区オペラソリストの会	オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」	8/31 ～ 9/1	2	南大塚ホール	23
一般社団法人サルビーノ	「メシア」～洗礼者ヨハネの涙～	9/14	2	南大塚ホール	初
ハグハグ共和国	夏休みの友たち	8/28 ～ 9/1	9	萬劇場	2
テンナイン	A CRIME	9/5 ～ 9/8	7	萬劇場	初
劇団ヒラガナ ()	歩き巫女の花火	9/12 ～ 9/15	6	萬劇場	初
劇団生命座	太陽が落ちてきた～すすなりの逸声～	9/20 ～ 9/23	7	萬劇場	3
劇団ヨロタミ	純愛協想曲	9/26 ～ 9/30	8	萬劇場	11
劇団バター猫のパラドックス	二進法の彼女・二進法の彼氏	8/29 ～ 9/8	22	コフレリオ新宿シアター	1
劇団現代古典主義	同時進響劇『スペインの悲劇』 ～ヒエロニモの怒り～	9/14 ～ 9/16	5	コフレリオ新宿シアター	1
東京ハイビーム	ホスピタル	9/18 ～ 9/22	8	コフレリオ新宿シアター	初
オフィス櫻華	波音に青く微笑みを	9/25 ～ 9/29	8	コフレリオ新宿シアター	初
テアトロ*ネネム	今日という日の花を摘め	9/13 ～ 9/15	5	シアターバビロンの流れのほとりにて	初
ポッキリくれよんズ	ワーク・スペース・フライデー	9/21 ～ 9/23	6	シアターバビロンの流れのほとりにて	初
TEAM 海賊	アンナは最高の女	9/26 ～ 9/30	10	シアターバビロンの流れのほとりにて	1
Prelude	ここハ東京、ユメのなか	9/4 ～ 9/8	8	シアター風姿花伝	初
〇〇Pソファ	喜劇 暗がりの代筆屋	9/12 ～ 9/15	7	シアター風姿花伝	初
緊急ルーレット	第5回緊急公演	9/3 ～ 9/6	6	池袋東口ゲキバ	初
【特別参加】 悪い芝居	悪い芝居 vol.24「アイスとけるとヤバイ」	9/4 ～ 9/8	7	東京芸術劇場シアターウエスト	-
【特別参加】 劇団昴	『君恋し』-ハナの咲かなかった男-	9/19 ～ 9/26	10	東京芸術劇場シアターウエスト	-
【特別参加】 シアター・キャタック	中川久美 Anniversary VIVA80-KUMI「Road to…」	9/28 ～ 9/30	4	東京芸術劇場シアターウエスト	-
【特別参加】 theatre PEOPLE PURPLE	STRANGE CLAN	8/29 ～ 9/1	5	あうるすぽっと	-
【特別参加】 大正浪漫探偵譚製作委員会	大正浪漫探偵譚 一万華鏡への招待状-	9/11 ～ 9/16	10	あうるすぽっと	-
【特別参加】 オフィス上の空プロデュース	キ上の空論 #11「紺屋の明後日」	9/20 ～ 9/29	13	あうるすぽっと	-
【第 30 回池袋演劇祭大賞受賞公演】 劇団 SHOW 特急	真田十勇伝 ー令和元年ー	9/4 ～ 9/8	8	あうるすぽっと	4

第32回池袋演劇祭 | 参加団体・審査員募集

開催期間:2020年9月1日[火]～9月30日[水]

参加団体募集 詳細・申込方法は池袋演劇祭 WEB サイトに1月中旬にUP 予定です。

参加資格

- ①池袋演劇祭開催期間中に、豊島区内の劇場・ホール等で2日間、2回以上の公演ができる団体（プロ・アマを問わない）であること。
 - ②審査用に鑑賞券20枚を招待として、演劇祭主催者に無料提供できること。
 - ③責任をもって公演を実施できること。
 - ④池袋演劇祭の関連行事（説明会・CM大会・意見交換会・表彰式等）に出席できること。※表彰式出席は必須
 - ⑤チラシ等に「第32回池袋演劇祭参加作品」と明記すること。
 - ⑥過去3年以内に、池袋演劇祭賞を受賞した作品は審査対象となりません。
- ※参加資格を満たさない場合でも「特別参加」がありますので事務局にご相談ください。

募集期間

2020年1月22日[水]～4月10日[金]

表彰

大賞1作品 優秀賞2作品 その他演劇祭賞など数本あります。

審査員募集

詳細・申込方法は、財団情報誌 Mirai 5月号に掲載予定、WEB サイトに5月初旬にUP 予定です。

募集要項

- ①18歳以上で演劇祭行事に積極的に参加出来る方（説明会・団体との意見交換会等有）
- ②開催期間中の事務局指定3～5公演を必ず鑑賞して指定の採点表に記入し提出できる方
- ③指定公演他、数公演の無料鑑賞券・鑑賞補助券を差上げます。

募集期間

2020年5月10日[日]～6月20日[土]

お問合せ

池袋演劇祭実行委員会事務局

TEL: 03-3985-0960 E-mail: info@ikebukuroengekisai.jp

HP: <https://ikebukuroengekisai.jp/> 池袋演劇祭で検索できます。

Twitter: @IKE_ENGEKISAI (池袋演劇祭*マイムちゃん)

Facebook: <https://www.facebook.com/IKEBUKUROENGEKISAI/>



編集後記

「令和」

池袋演劇祭実行委員長 朝比奈文彦

今年5月、新たな元号となった「令和」。そこに“人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ”という意味が込められ新しい時代が始まった。そしてその新時代の訪れと時を同じくし、豊島区は正に新たな時代へ突入した。

国際アート・カルチャー都市構想の中核を担う「ハレザ池袋」は8つの劇場を備え、ミュージカルや伝統芸能を公演するホール、サブカルチャーを楽しめる空間など多様な施設となる。東池袋一丁目シネマコンプレックスプロジェクトは首都圏最大級のシネコンになり、「劇場都市」としての構想は、開放的な芝生を備える南池袋公園を始め、池袋駅周辺にある東西合わせて4つの公園で整備事業が行われている。さらにそれらの公園を周遊する赤いバス「池袋副都心移動システム」が運行を開始した。

またソフト面では、「東アジア文化都市」として「舞台芸術」「ア

ニメ・マンガ」「祭事・芸能」の3つを柱に、この1年間は日中韓3都市間を中心とした交流事業が展開された。

正に文化の発信拠点として新時代に突入した池袋。誰がこの街に、これだけの文化が生まれ育つ事を想像出来ただろう。

しかし実は、池袋が文化の街という側面は最近始まった訳ではなく、「昭和」から「平成」に変わった時、既に始まっていた。それが「池袋演劇祭」である。根気強く、信念を持ち、街の為に、人の為に、先人達が産み育ててくれたのが「池袋演劇祭」であり、紛れもなくこの街の文化を支えてきた。

演劇祭の表彰式にて、会場から溢れる拍手と歓喜の声、“人々が美しく心を寄せ合う”姿を見れば、それが分かる。



第31回池袋演劇祭大賞受賞公演決定!!

第31回池袋演劇祭の大賞団体「電動夏子安置システム」の受賞公演を、2020年8月末にあうるすぽっとで開催いたします。詳細は池袋演劇祭全体プログラム・WEBサイト等で発表いたします。